

“教育”と“体験”を 組み合わせた震災伝承

リアルな地震体験が防災学習の価値を高める



■ 導入の背景

おぢや震災ミュージアムそなえ館は、2004年10月23日に発生した新潟県中越大地震の被害や教訓を後世に伝える防災学習施設です。施設では、開館当初より「地震ザブトン」を展示。来館者に向け、実際の観測記録を基に再現した地震体験を提供しています。

■ 提供機器

実際の観測記録を基に、水平2方向の地震動をリアルに再現できる可搬型地震動シミュレーター「地震ザブトン」を提供しました。



専用スペースでの地震ザブトン体験



館内には新潟県中越大地震に関する展示が数多く



団体向け防災プログラムでは、語り部講話やレクチャー、グループワークを提供



■ 運用

- 語り部講話やグループワークによる「教育」と地震ザブトンによる「体験」を組み合わせた防災学習体験プログラムを提供
- リアルな地震体験を通じて、新潟県中越大地震の背景を深く理解することができる
- 県内／県外の小中学生、自主防災組織、町内会、地域防災リーダーが施設を訪問、防災学習プログラムを受講している



施設に届いたお礼の手紙

科学展の地震体験展示に地震ザブトンを短期貸出

リアルな地震体験を通じて子どもたちに「防災・減災」をわかりやすく伝える

■ 導入の背景

未就学～小学校中学年の子ども達に、「防災・減災」について考えてもらう体験型展示が必要でした。また、約一か月間(夏休み期間)の利用、大掛かりな工事が不要なこと、毎日の運営や装置の管理が簡単に行えることが求められていました。

■ 提供機器

実際に観測されたデータを基に、水平2方向の地震動をリアルに再現できる可搬型地震動シミュレーター「地震ザブトンBasic(映像:実写版)」と、「地震ザブトンVR(映像:3DCG版)」を提供しました。



説明を聞きながら、震災を知らない子ども達が揺れを体験



中学生以上を対象として、家具固定の大切さを伝える展示に



体験前に展示の意図をきちんと伝える説明の時間を設けた



会場で配布されたリーフレット

■ 導入後の効果

- 「防災・減災」の大切さを伝える体験型展示として有効に機能した
- 震災を知らない子どもたちに地震体験させる貴重な機会として喜ばれた
- 震災当時のことを子どもたちに伝えるコミュニケーション媒介として活用された
- 33日間の会期中に来場者は約29,000人、地震ザブトンの体験人数は約4,300人になった



さまざまな業界・業種の導入事例をWebサイトで公開中!